

表10 SPFラット群の検査及び処置

病原体	供試抗原 <sup>1)</sup>	検査時期及び検査頭数		検査方法 <sup>2)</sup>	処置
		時期	頭数		
唾液腺腺炎ウイルス		1か月毎	退役動物から10匹を 無作為抽出	CF	抗体陽性群・同居群 <sup>3)</sup> 全殺
センダイウイルス	MN	"	"	CF	"
ハンタウイルス		"	"	ELISA IFA	"
マウスニューモニアウイルス		"	"	ELISA IFA	"
マイコプラズマ プルモニス		"	"	菌分離	陽性群・同居群 全殺
緑膿菌		"	"	菌分離	"
サルモネラ		"	"	菌分離	"
サルモネラ ティフィムリウム	K-28	"	"	AGG	抗体陽性群・同居群 全殺
バクテリウム ニューモトロピカ		"	"	菌分離	陽性群・同居群 全殺
ボルデテラ ブロンキセプチカ		"	"	AGG	抗体陽性群・同居群 全殺
ストレプトコッカス ニューモニエ	64L	"	"	菌分離	陽性群・同居群 全殺
コリネバクテリウム クチェリ	CK-1	"	"	菌分離	"
パシラス ビリフォルミス		"	"	ELISA IFA	抗体陽性群・同居群 全殺
ネズミジアルジア		"	"	鏡検	陽性群・同居群 全殺
ネズミスピロヌクレウス		"	"	鏡検	"
ネズミ盲腸蟻虫		"	"	鏡検	"
マウス肝炎ウイルス	Pr	"	"	CF	抗体陽性群・同居群 全殺
皮膚糸状菌		"	"	菌分離	"
マウスアデノウイルス <sup>4)</sup>					
脳心筋炎ウイルス <sup>4)</sup>					
狂犬病ウイルス <sup>4)</sup>					
ネズミロタウイルス <sup>4)</sup>					
レオウイルス <sup>4)</sup>					
ラットバルボウイルス <sup>4)</sup>					

注 ラットの健康状態、異常な点等については全て記録する。死亡したラットについては病理組織学的検査等を行う。

1) 供試抗原は、他の適切な株を使用してもよい。

2) 同等な検査方法があればその検査法を採用してもよい。検査方法は、その妥当性が検証され、保証された方法で実施すること。 ELISA：免疫酵素抗体法 IFA：間接蛍光抗体法 AGG：凝集反応 CF：補体結合反応

3) 同居群とは、陽性群と完全に隔離されていない群をいう。

4) 国内で発生がない(又は重要度が低い)ものについては、抗原、試験法及び処置については発生国が実施している方法を重視する。